竹内和順 議員

● 中心市街地の活性化について
● 「地産地消」より「地消地産」について

一般質問

問 まちなかへ県外から誘客することは大事だが、まず地元の人たちがまちなかを大事にし、興味を持ち、地域は地域で守り、盛り上げていこうという気概が何よりも大切と考える。市の中心部であるまちなかの活性化は、市民全員の願いではないか。これまでにも、本町通り商店街のにぎわいを取り戻そうと、中心市街地の整備を行ってきたが、にぎわいが創出されてきたかは疑問。いわゆるまちなかと言われるところのにぎわいを復活してもらいたい。見解を伺う。

答 平成15年以来、街並み整備を進め重層的なハード整備を進めてきた。

平成27、28年度に観光客のまちなかへの誘客等による中心市街地全体の活性化を目指し実施した、おもてなし商業エリア創出事業で、合計13の飲食店等が店舗改修等を行った。新築を除く改修店舗の改修翌月の売上は対前年同月と比較し、平均118％と上昇している。今後も、まちなかを活性化させ、観光の産業化による市全域の活性化につなげたい。

問 「地産地消」とは地域で生産された農産物を地域で消費するという考え方。最近、「地消地産」という考え方があり、地域で消費するものをその地域で作ることを掲げる消費地生産を基盤に置くもので、農業でも誰に、何を、どのように価値を提供できるかというマーケティングの考え方を用いる必要がある。外部からお金を稼ぐことも大事だが、「循環力」も地域活性化の達成を考える上で重要な概念であると思う。消費の為の「生産のあり方」ではなく、持続可能な社会のための「消費のあり方」が求められてきていると思う。見解を伺う。

答 策定中の「第3次勝山市食育推進計画」でも「地消地産」に取り組み、より消費者のニーズに沿った計画を検討している。また、勝山市産の農林水産物を活用している飲食店等を「かつやま”地のもん“推進店」に認定して「地産地消」の推進に取り組んでいる。今後は、消費者のニーズに合った料理や農産物の生産をしてもらえるよう啓発活動に努めたい。

松山信裕 議員

● 勝山市観光振興ビジョンについて
● 夏祭りについて
● えちぜん鉄道全線開通15周年記念について

そのほかの質問
・シティプロモーションについて

一般質問

問 勝山の観光に関する将来の目標や方向性を見きわめ、これを観光の担い手となる全ての人の共通のビジョンとして、官民挙げて新たな観光振興によるまちづくりの活性化を目指すための共通の指針と新しい時代のニーズに対応し勝山市が観光都市を目指し、地方創生総合戦略、勝山版DMO「勝山市観光まちづくり株式会社」を展開する中で新しく勝山市観光振興ビジョンを策定すべき。

答 新たな観光振興ビジョンについては、大きく変わる環境を踏まえてから検討する必要がある。

策定にあたっては、広い視点を持って検討するため、各分野の専門家のアドバイスを受け、データを収集、分析し、数値データをもとにしたものとする必要がある。勝山市観光まちづくり株式会社を中心とし、情報収集、分析をおこなっていく。

問 夏祭りのメインイベント「ヨサコイ」が無くなり、市民の皆さんの中では、とても寂しいとの声も聞かれた。

今年の夏祭りの各事業の結果・成果をどのように検証し、今後の開催についてどのように考えているか。

答 白山平泉寺開山1300年記念事業では、平泉寺観光ガイドの申込数が対前年比300％となった。

DINO-A-LIVEでは、勝山市の知名度向上効果があったと考えている。

灯りまつりは、大手旅行社との連携の流れができつつある。

継続的に期間の長い観光誘客事業を設定し、PRを行うことで、観光客数の増加と滞在時間の増加を図り、観光消費額増を目指していく。

問 えちぜん鉄道勝山永平寺線は平成15年10月19日に全線開通し、来年、15周年を迎える。

当時、市民が熱い思いで壮絶な存続運動を行い、えちぜん鉄道が生まれたということを次の世代につなげていくために、全線開通15周年イベントを行うべき。

答 過去の開通記念イベントでは、えちぜん鉄道と行政、サポート団体がお互いに協力して実施しており、15周年についても関係機関が一体となり、賑わいを創出するための仕組みや内容の検討を進めていく。